

Column

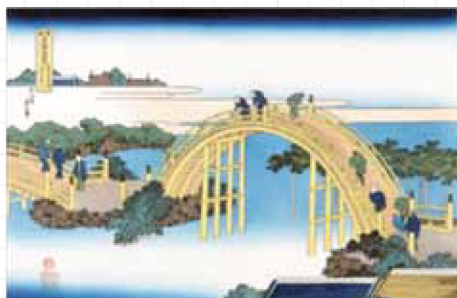
こんなところにPCが!

亀戸天神太鼓橋

亀戸天神(東京都江東区)の大鳥居をくぐると、数字の「6」を横にしたような心字池に、3つの小さな赤い橋が架かっています。最初の橋は太鼓橋、次の橋は平橋、その次は太鼓橋です。この3つの橋は仏教の「三世(過去・現在・未来)」を表しています。いつのころからか、大鳥居側の太鼓橋は「男橋」、拝殿側の太鼓橋は「女橋」と呼ばれるようになり、現在はこの呼称が一般的になっています。

亀戸天神に仏教の三世を意味する橋が造られたのには、ある理由があります。江戸時代初期、菅原道真の子孫によって現在の地に亀戸天神が建立されました。福岡の太宰府天満宮を模して建造されたため、心字池や橋も同じように造られました。太宰府天満宮は、平安時代に菅原道真の墓所に造られた天満宮安楽寺が、鎌倉時代以降の天神信仰の高まりにともなって神祇的性格が強くなり、明治の廃仏毀釈で神社になったものです。そのため、太宰府天満宮には仏教の影響を受けた造りが随所に残っています。古図に「石鳥居 御池 橋 橋 橋 …」の表記がありますので、天満宮安楽寺の建設当時からの3つの橋があったようです。

江戸時代、亀戸天神は、西の太宰府天満宮に対して、東宰府天満宮とも称され、江戸を代表する名所のひとつでした。心字池の周囲に大きな藤棚があり、特に藤の花の咲く季節には多くの参拝客でにぎわっていたようです。浮世絵に描かれた当時の橋は、木製アーチの優美な橋で、この姿が和服の帯の「お太鼓結び」の由来になったと言われています。



葛飾北斎
『諸国各橋奇覧』

戦後、木橋からコンクリート橋に変わり、その橋が老朽化してきたため、平成14年の菅公御神忌千百年大祭を迎えるにあたって架け替えることになりました。太宰府天満宮の太鼓橋の高欄の施工実績があ

る昭和鉄工(株)に設計事務所から相談があり、昭和鉄工(株)と取引のあった(株)富士ピー・エスが上部工を施工することになりました。平成12年の藤まつりが終わってから、池の亀と鯉を二日ばかりで捕獲し、活魚運搬用のトラックに乗せて千葉県の実験場に移送し、本格的な工事を開始しました。年末に工事を終えて、12月25日に盛大に渡り初め式が行われました。



亀戸天神太鼓橋「女橋」

建設費だけを考えると、池に支保工を組んで現場打ちのRC構造にするほうが有利なのですが、年間を通して参拝客が絶えないため、境内で長期間工事をするわけにもゆかず、結局、工場で製作したRCの半円アーチ桁を敷き並べ、PCの技術を使って横締めするというハイブリッドな構造になりました。

多くの参拝客の目に触れるため、特に仕上げの美しさを求められたのは当然ですが、それ以外にも様々な苦労がありました。太鼓橋だったため、横締め用足場の設置が難しく、また、この橋に合わせた緊張機械の製作や、橋の勾配に合わせた高欄や階段の施工が大変で、見た目以上に難易度の高い橋でした。

過去と未来が太鼓橋、現在が平橋という三世の橋の姿を見ていると、公共事業費の推移のグラフを見ているような錯覚を覚えます。未来が太鼓橋ですから、私たちの将来も期待できそうです。

(株)富士ピー・エス顧問 松嶋 憲昭



総武線亀戸駅北口より徒歩15分
総武線、地下鉄半蔵門線錦糸町駅北口より徒歩15分